

参考－1 授業者の選書基準と「日本の諸地域調べ」の授業計画

平成 22 年度の活動を通して明らかとなった、中学校社会科「日本の諸地域調べ」のための授業者の選書基準とその前提となる当該授業の計画を紹介します。なお、これは、今回対象とした東京学芸大学附属竹早中学校 荒井正剛先生の授業における選書基準や授業計画であり、汎用的なものではないにご注意ください。

「日本の諸地域調べ」学習のための授業者の選書基準

＜授業者が重視していた事項＞

- 当該教科・単元の学習内容に合った情報が掲載されている。例『九州地方（ポブラディア情報館）』2010
 - ・他の教科・単元（例：国語、歴史）に特化したものは避ける。例『琉球・沖縄史』2008
 - ・小学校の学習内容のみが書かれた資料は避ける。例『辞書びきえほん日本地図』2008
 - ・具体的な人間の営み（エピソード）が書かれている資料がよい。例『大工場のあるまち：自動車工業と人びとの暮らし（ふるさとの暮らし日本のまちとむら）』1997
- 生徒の興味を引く身近なテーマを扱っている。例『大阪の教科書－大阪検定公式テキスト』2009
 - ・当該教科・単元から生徒の興味をそらしがちなテーマ（例：鉄道車両、観光ガイド）は避ける。例『修学旅行に役立つおみやげ・名産品大図鑑－地域の特色がよくわかる』2007
- 生徒が発表する際の材料（パーツ）にできる情報が掲載されている。
 - ・写真、図版が多い。例『朝日ジュニア学習年鑑』2010
 - ・統計、地図が多い。例『日本のすがた 2010』2010
 - ・読み物（1冊読み通すことを前提とした本）は避ける。⇒授業後の発展学習にはよい
- 適切な目次がある。

＜授業者が重視していなかった事項＞

- 適切な索引がある：あった方がよいが、無くても構わない。今回の授業での調べが、調べ方を一から学ばせることを目的とした自由研究的調べ学習ではないため。
- 出版者、執筆者、編者が著名である：必要な情報が掲載されていることが重要。
- 刊行年が新しい：基本的には新しい方がよいが、内容が良ければ古い資料でもよい。授業の中で、最新のデータは別の情報源で確認するよう指導するため。例『図説学習 日本の地理 改訂版』1982
- 児童書である：興味のある生徒なら大人向けの啓蒙書も読む。ただし、この授業の場合には児童書だけでも足りる。
- 本全体の完成度が高い：必要な情報が掲載されていることが重要。
- 選書用キーワードに含まれる全てのキーワードに対応する資料を集める：資料の調査だけで学習を完成させる訳ではなく、必ず教師の指導が入るため。

東京学芸大学附属竹早中学校 第 1 学年社会科

「日本の諸地域調べ」の授業計画（授業時に生徒へ配布したプリントから抜粋）

※下記の網掛け部分で、学習用ブックリスト資料を用いた調べ作業を行った。

※[]は、国際子ども図書館が補記した部分。

1. テーマ:日本の諸地域を調べよう

* 2 学期に学習した北陸地方と東京の授業を参考に、各地域の特色と課題を調べ発表し、学び合う。[諸地域調べに入る前に、北陸（新潟）と東京について教員による講義を行った。][生徒の希望等により、1 クラスを地域別に 8 グループに分けた。]

2. 学習のポイント

* 調査：各地域の次の①～⑤のようすをとらえ、その特色が見られる理由を考察する。また、各地方の課題をとらえ、それについて自分たちなりの意見を持つ。

(①自然・環境保全、②人口・都市、③農林水産業、④工業と交通、⑤生活文化・歴史的背景) 2 県くらい選んで、その県を中心に調べてもよい

* 発表：調べたことについて、資料を使って、わかりやすく筋道立てて発表する。

* まとめ：全部の発表を通して、ほかの地域との共通点と調べた地域の特色を考える。

3. 調査の進め方のめやす

1 時間目 身近な資料を使って、基本的な知識を得、テーマを考える。

①[事前に配布された]プリントに沿って、自然、人口、産業の特色を大まかにとらえる。(全員で調べてもよいし、分担してもよい。分担した場合は必ず情報交換すること。)

②以下の資料を調べる。(分担するとよい)

資料集、教科書、地図帳

別紙プリントで、農業や工業の全国に占める割合の変化をとらえる

③疑問に思ったこと・おもしろいと思ったことを出し合い、テーマを決める。*テーマは、上記①～⑤から、少なくとも 3 つ以上をカバーしたい。[生徒は、考えたテーマ案を授業者に提出。授業者は、提出されたテーマ案を確認し、地理学習に合ったテーマ設定ができるよう、必要に応じて指導。]

2・3 時間目 詳しく知りたい内容などについて、図書やネット資料を収集する。[インターネットの使用は 3 時間目のみ許可。][時間中は学校司書による援助を行った。]

*最後の 10 分間は、わかったことを出し合うこと。分担した内容の関連に気をつける。

4 時間目 調べたことの整理と発表準備

・わかったことを地図化・図表化するとよい。

・発表の順番と方法を考える。(発表は 20 分程度、本を読んで発表することはやめよう！)

・要点を B5 サイズにまとめる。(印刷して全員に配ります)

・そのほかにプリント資料を作ってもよい。

4. 発表の順番

①沖縄、北海道、②九州、中国・四国、③近畿、東北、④東海、東山

[5. 補記 発表後の授業展開

5・6・7・8時間目 グループごとの発表。生徒は、他グループの発表を聞く際、自分たちが調べた地域と比べて、共通点やキーワードを記録用紙に記入した。また、発表後の授業者の補足説明を聞きながら、配布された要点プリントを埋めた。

9時間目 発表を聞いて分かったこと、特に共通点について、各自で整理し、最後に授業でまとめた。]

※なお、生徒は、この授業までに、調べ学習を 2 回（世界の衣食住調べ、世界の諸地域調べ）行っていた。索引の使い方等を説明した学校図書館のオリエンテーションも受けていた。